

## 県連・商工会等による支援の動き 9/1~9/7

9/7 岩手県内商工会、震災関連相談窓口開設状況

▼岩手労働局出張相談会 7日 11～15時山田町商工会 ▼8日 11～15時陸前高田商工会仮事務所

9/7 新潟県・相川町商工会女性部が「佐渡おけさ」で復興応援

佐渡市の相川町商工会女性部がこのほど、福島県会津若松市のJR会津若松駅前で開かれた「エキマエ盆踊り」で佐渡おけさを披露した。同県以外からは唯一の参加で、波の模様が入ったおなじみの青い浴衣と編みがさ姿で登場。踊りを見た人からは「美しい手の動きなど、優雅な踊り」との感想も聞かれた。

この催しは、駅前を活気づけ、東日本大震災の風評被害を払拭（ふっしょく）しようと、地元の商店街などで行う実行委員会が企画した。佐渡おけさのほか、福島県から会津磐梯山踊りや相馬盆唄などが披露された。福島第1原発事故を受け避難している大熊町の商工会員らも参加し、交流を深めた。

7月に行われた地元産品を販売する駅前市に続く第2弾の催し。駅前市に佐渡市の金井商工会のメンバーが参加した縁で、通年で佐渡おけさなどを練習する相川町商工会女性部に声が掛かった。同女性部の西村幸子副部長は「当初はおけさが復興支援につながるのか不安だったが、祭りを盛り上げ、また現地に宿泊することが支援になると実感した」とほほ笑む。

「エキマエ盆踊り」の実行委の鈴木平助会長（57）は「まだ風評被害は残っている。その中で、こちらに来て佐渡の踊りを見せてくれることがうれしかった」と話した。

9/5 福島県・浪江長商工会青年部メンバーらがなみえ焼きそばPR隊の活動を再開

福島第一原発事故で「警戒区域」に指定され、避難生活を強いられている福島県浪江町の商工会青年部のメンバーらが、B級ご当地グルメ「なみえ焼きそば」のPR活動を再開した。「復興の先頭に立ちたいのに、町に入ることもできない」との悔しさを胸に「町民の心の復興のため、浪江に戻れる日まで頑張りたい」と全国各地のイベントで奮闘している。なみえ焼きそばは極太の麺が特徴で、青年部は二〇〇八年、PR団体「浪江焼麺太国（やきそばたいこく）」を発足。昨年のB級ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」にも出場した。

中心メンバーの八島貞之さん（43）は原発事故の直後、茨城県境近くに避難。避難所の炊き出しに参加し、焼きそばを振る舞った。居合わせた浪江町民たちに喜ばれ、各地の

避難所の町民から「こっちにも来てくれ」と電話が相次いだ。

約三十人の仲間は各地に避難し、散り散りに。行方不明になったメンバーや、津波で家族を亡くして活動できないメンバーもいた。それでも四月中旬に活動を再開し、福島県二本松市の道の駅で焼きそばを販売。開店前から、避難中の浪江町民らの長い列ができて、「また食べられると思わなかった」と感謝された。

各地のB級ご当地グルメ大会の主催者などから「支援したい」と招待が相次ぐ。東京都や兵庫県で開かれたイベントでは、周辺に避難している町民も駆けつけ「頑張って」と逆に励まされた。

「長く避難生活をしていると、本当に戻れるのか毎晩不安になる」と八島さん。なみえ焼きそばを通じ、浪江町をPRする活動は「奪われた古里に早く戻れるようにしてくれ、という国への訴え」だと話した。

---

#### 9/5 石川県・川北町商工会がイベントで震災の義援金活動活

川北町と同町商工会は25日、年少人口（0～14歳）の構成比率と増加率が県内トップであることにちなみ、子どもを中心に楽しめる「かわきた元気まつり2011」を開催する。粘土細工の著名人を招く教室などで東日本大震災からの復興支援を呼び掛け、被災地の子どもに粘土や義援金を届ける。

町と商工会は大震災発生以降、「経済など各分野で活気が落ちている」として、元気の源である子ども向けのイベントを企画した。当日はサンアリーナ川北から町総合体育館までを歩行者天国にして、多彩な舞台、消防車やパトカーなど「働く車の体験コーナー」、迷路や大型滑り台などで集客を図り、義援金を募る。目玉行事は粘土でミニチュアの「料理」を作る岡田ひとみさんを招いた「粘土クッキング教室」で、被災地の子どもにも楽しんでもらおうと粘土を贈るカンパも呼び掛ける。このほか、サッカーボールで華麗な技を披露する「Stylers」の舞台や、男性5人のゴスペルバンド「サーム」のコンサート、地元小学生のブラスバンド演奏、軽トラック荷台を使った市場などがある。

---

#### 9/5 全国連が被災地支援のため「軽トラ隊」を組織

東日本大震災からの復興に向けて、新たな販路開拓や商品PRのため全国商工会連合会が「軽トラ隊」を組織した。岩手、宮城、福島の3県内の商工会に各県10台、計30台の軽トラックを順次配備している。まず7月に仙台市で開かれたイベント「地域力宣言2011 in TBC夏まつり」に宮城県商工会連合会が軽トラ1台を持ち込んだ。他県から被災地商工会に対して物産展への参加要請も多く寄せられている。

---

#### 9/4 福島県いわき市久之浜町で、プレハブの仮設商店街が開設

震災で海岸部が壊滅的な被害を受けたいわき市久之浜町で、プレハブの仮設商店街が久之浜第一小学校の校庭に3日、開設された。被災した地元の商店や食堂、事業所が入居している。国が仮設の建物を貸し出す中小企業基盤整備機構の制度を利用したもの。市によると、この制度を活用して地元で商店街が「復活」するのは県内では初めてという。

商店街は「浜風商店街」と名付けられた。140平方メートルの平屋建てが2棟並び、飲食店や駄菓子店、理容店や鮮魚店、酒店や家電機器販売店、建築設計事務所、それに久之浜町商工会の合わせて11軒が入居している。

この地域では震災後、市の中心部近くまで買い出しに出かける人も多く、商店街の開設で暮らしが便利になると期待されている。

浜風商店街で「からすや食堂」を営む遠藤義康さん（53）は、朝から新店舗で仕込みをしながら「自分の好きな仕事で汗を流すのは本当に気持ちが良いね」とかみ締めるように話した。店舗が全焼した震災以降、ほぼ半年ぶりの営業。材料の仕入れ先も被災したためまだメニューは少ないが、店の再開を待ちかねた常連客が多数、のれんをくぐり、「いつもの食べにきたよ」という客に、「はいよ、五目ラーメンだね」とにこやかに答えていた。

この日は商店街前で式典があり、久之浜町商工会の熊木寿夫会長はあいさつで「浜風商店街という名称には、海から良い風を引き込み、浜と共に生きようとする私たちの思いが込められています」と語り、テープカットで船出を祝った。

式典後、熊木会長は取材に対し、「これを契機に街ににぎわいが戻り、久之浜から離れた人たちも戻れるよう、頑張るつもりだ」と話した。

---

#### 9/3 神奈川・逗子市商工会が震災復興支援の商品券に発行

逗子市商工会が、東日本大震災の被災地復興支援と地元の経済復興を目的に、商品券を発行する。プレミアム分として二千三百五十七万円を市が助成する

商品券は、10%のプレミアムを付け、額面一万一千円を一万円で販売。二億二千万円分を発行する。さらに抽選で被災地の特産品セット（五千円分）が六百本当たるダブルプレミアムを付ける。

来月十六日に開催する市民まつり会場で販売を開始。商工会加盟の飲食店など約四百店で、券の購入と使用ができる。市内在住者が購入対象で、来年三月末まで使える。

参加の四百店は、可能な限り、被災地から商品を仕入れることで経済復興を支援し、購入者からも一万円分の購入時に百円の義援金を募る。また、市民まつりには、地元の特産品を販売する被災地の事業者を招くことにしている。

---

#### 9/3 山口県・下関市商工会青年部がイベント収益金の一部を被災地支援活動の支援金として

## 贈呈

下関市商工会青年部（部長：中野秀行）では、昨年11月に行われた商工会青年部主張発表全国大会において、当青年部所属の伊藤孝之氏が最優秀賞を受賞したことに関連して全国の青年部員に対する感謝の意味を込め、発表の題材となった豊田地区の「日本初のホテル船運航」の収益金の一部、約25万円を全国商工会青年部連合会相談役の宮本周司氏（前会長）が中心となって実施されている東日本大震災被災地への支援活動に対する支援金として贈呈することとした。

9月3日に高知県で開催された中国・四国ブロック商工会青年部交流会において、宮窪大作全青連会長に手渡した。

---

## 9/2 滋賀県・浅井商工会などがイベントで被災地支援

9月3日、「長浜あざいあっぱれ祭り」が開催される。県内外からよさこい踊りの37チームが参加して競う。北海道大学のチームと被災地・福島県の学生チームのリーダーらがゲスト出演。会場では岩手、宮城、福島の3県の特産品の販売もある。問い合わせは浅井商工会。

---

## 9/2 滋賀県・湖南市商工会などが震災復興支援イベントを開催

9月10日湖南市商工会が東日本大震災復興応援イベント「さあみんなで応援しよう」を開催する。野菜や菓子など福島県特産品の販売や、郷土料理「いかにんじん」の調理実演・試食コーナーなど模擬店約10店が出店。太鼓やバンドの演奏を披露するステージもある。

---

## 9/2 静岡県・西伊豆町商工会青年部が加盟店舗で募った義援金57万円余を寄託

西伊豆町商工会青年部（高木良文部長）は1日、商工会加盟店舗で募った東日本大震災義援金57万5924円を西伊豆町に寄託した。

義援金寄託は、同青年部の社会貢献を目的とした事業の一環。4月上旬から8月末まで、商工会に加盟する約60店舗に募金箱を設置して、善意を募った。

町役場を訪れた高木部長は「皆さんの協力で集まった大切なお金です。被災地復興に役立ててほしい」とあいさつして、藤井武彦町長に義援金を手渡した。藤井町長は「貴重な気持ちを被災地に必ず伝えます」と謝意を述べた。義援金は日本赤十字社を通じて、被災地復興に充てられるという。

---

9/2 福島県双葉町の盆踊りが埼玉県加須市で開催、騎西商工会などが支援

8月14日。大小の太鼓や笛が奏でる福島県双葉町の盆踊りの囃子〔はやし〕が、約280キロ離れた埼玉県加須〔かぞ〕市の旧騎西高グラウンドに響いた。耳慣れた音色に、踊る町民たちの顔がほころぶ。「大成功だね」。実行委員長の朝川栄さん（55）も白い歯を見せた。

「盆踊りやりてえなあ」。6月、町民たちが旧騎西高に集団避難して約2カ月後の夜。少し酒に酔った仲間の一人が避難所の喫煙所で、しみじみとつぶやいた。町では毎年お盆の時期、地区ごとに盆踊り大会を開いてきた。町外に出た者も帰郷し、踊りの輪に加わった。先の見えない避難生活に、じりじりとしていた町民たちの血が騒いだ。「やっぺ、やっぺ」

ただ、伴奏に使う太鼓も笛も町内に置き去りのまま。見知らぬ土地で、どうやって調達するのか。現実的な問題を前に実行委員長がなかなか決まらない。意を決して朝川さんが手を挙げた。「避難している高齢者たちに、故郷の笛や太鼓聞いて頑張ろうって思ってたんだ」

町の芸能保存会メンバーとして、地域の獅子舞の継承に力を注いできた。盆踊りでも、大小の太鼓をたたき、若者たちを引っ張ってきた。「文化の伝承とか堅苦しいことじゃねえ。今あるものを次の世代につなぐ。当たり前のことだ」 笛や太鼓は、避難所で出会ったボランティア団体の紹介で、埼玉県内の団体に借りた。地元の騎西商工会などがやぐらを提供し、出店も準備。全国から数百枚の浴衣も届いた。

盆踊りの会場。地元住民も集まり、会場の廃校には人があふれた。「避難者を受け入れてくれた地元の人たちも楽しんでくれてよかった。盆踊りはよお、人と人の絆を確かめる機会なんだよ」。朝川さんは胸を熱くする。避難所に暮らす高齢者たちも、少し元気になった気がした。

---

9/1 茨城県・大子町商工会が震災で低迷する町内商工業の復興を目的にプレミアム商品券を販売

大子町商工会（小泉喜嗣会長）は3、4の両日、10%のプレミアムの付いた商品券を販売する。同町初の販売で、東日本大震災で低迷する町内商工業の復興や振興を図る狙い。

商品券は、1セット1万円で千円券11枚つづり。町から1千万円の補助金を受け、総額1億1千万円分を販売する。購入対象者は町民か町内在勤者。利用できるのは、町内のスーパーや商店、飲食店、特産物販売店、コンビニ、温泉施設など計186店舗で、町内の店舗をほぼ網羅している。使用期間は9月3日から2012年1月末まで、利用金額に制限はない。

---

9/1 栃木県・矢板市商工会が鎮魂と復興目的に花火大会を開催

矢板市民手づくりによる「つつじの郷やいた花火大会2011」が10月15日、市文化会館の南西部で行われる。実行委は9月15日まで、企業や個人などに協賛金を募っている。

「市民が主役」の希望あふれる故郷づくりを目指し、有志が実行委（菅野進一（かんのしんいち）委員長）を組織して開催し今年で5回目。震災の影響で今年は危ぶまれたが、復興を目指し「元気です矢板！」をスローガンに開催を決定した。今回は前年より規模を縮小し、午後7時から約1時間、大玉や尺玉など1万発を打ち上げる。

また、本部を「道の駅やいた」に移し、午後3時から「ファミリータイム」として、コンサートや演奏、よさこいソーランなどのイベントも行う。

予算は1400万円。協賛金の一部は市内の復興支援のために寄付する。菅野委員長は「大震災で亡くなった人の鎮魂のためにも花火大会を成功させたい」と話している。